

第7回 武蔵野市図書館運営委員会の主な内容

日 時 平成25年5月30日(木) 午後5時30分～7時30分
場 所 武蔵野市立中央図書館 3階 視聴覚ホール
出席委員 伊野啓子 黒沢明子 酒井有紀 船崎 尚
松山 巖 三井一夫 毛利和弘

会議次第

- 1 開会
- 2 図書館長挨拶
- 3 前回会議議事録の確認
- 4 議事

(1) 図書館の運営について

① 平成24年度 武蔵野市図書館事業評価(案)について

事務局から平成24年度武蔵野市図書館事業評価について説明。今回いただいたご意見・ご質問を入れた訂正版を次回委員会前に送付し、評価をしていただく。それを基に24年度事業評価は次回の運営委員会にて行う。

委員 自動返却機は中央図書館とプレイスでは別のシステムですか。

事務局 プレイスの返却機は傾斜がついている形で、返却処理のみがされます。読み取りはとてもよいですが、返却処理後に職員が再度返却処理を行い、仕分けを行う手間があります。中央の返却機はベルトコンベアーで返却から仕分けまでを行います。読み取りスピードの問題などにより正しく読み取りが行われないうまくない不具合が生じています。センサーを増やすなど対策はしていますが、目立った成果はまだ出ていません。

委員 1-1ブックポストについて、前回までの会議で名前が挙がっていたコミュニティセンターなどの公共施設の検討はいかがですか。また「利用困難者に対する配本サービス」は、従来のサービスの記述がなく判断ができません。配本サービスと対象者の見直しを行った結果の宅配サービスでしょうか。またプレイス開館により人員が割けない中で宅配サービスを行う余地があるのでしょうか。この事業に市民ボランティアの問題と関わるのですか。

事務局 「配本サービス」と「宅配サービス」は同じと捉えています。現在、他自治体の調査を始めた段階で、サービス対象者の見直しなどはできていません。従来の障害者サービスでは「宅配サービス」と呼べるほど大きなものではありませんが、来館困難者に郵送で本を送るサービスを実施しています。この対象者の見直しや誰がこの業務を担当するか、事業の実現を含めて検討段階です。

ブックポストは、他の公共施設との連携を大きな問題として認識しています。防犯や受け入れる施設側の課題など、解決しなければならない問題があります。学校などは防犯の関係で難しいですが、身近なところではコミュニティセンターなど、実現できそうなところから設置を検討しています。

委員 4-1の電子書籍導入についてのまとめはないそうですが、情報収集した結果はありますか。また6-2の児童・YA図書の収集・整備については具体的な数値はありますか。

事務局 電子書籍は勉強会等へ出席した際の出張の報告書というかたちではありますが、中間まとめや今後の方針の決定などはできていません。

児童書の買い替えについて具体的な数字の把握は現在できていませんが、数えることはできます。武蔵野市では蔵書が多いため古い本は書庫に入れており、長く読み継がれているような本でも書架に並べられないことがあります。今後は古くてもよい本は買い替えをする方針とし、昨年度は力を入れました。冊数については数字の把握に努めます。

委員 学校図書館システムとの連携を待ち望んでいますが、研究はどのように進んでいますか。

事務局 現状はほとんど進んでいません。市立図書館と学校図書館の現在のシステムは全く違うものなので、今の時点で繋ぐことは不可能です。現状としては、学校がインターネットから市立図書館の蔵書を調べることはできます。また今後学校図書館のシステムを調べることはできます。ただ、この問題は学校側の協力がないと進まないのので、今後は調査と働きかけが必要だと考えています。

委員 システムが繋がることは理想的ですが、難しいことなのですね。

事務局 現在、学校からの依頼で多く貸出をしています。「このテーマについて30冊」というような大まかな依頼を受けてこちらで本を選び送っているため、学校側はとても便利だと思います。学校同士で行うと、この学校からこの本を何冊、と細かく指示しなければならず、図書館に任せる現状のほうが遥かに便利なので、学校側は学校同士で連携することにあまり興味を持っていないようです。どのように説明していくかなどを含めて今後の課題だと認識しています。今回、学校のシステムが統一されたことは進歩ですが、図書館との連携は長い問題と認識しています。利用者情報などの問題もありますが、お互いに入替時期などにうまく連携ができるようにしたいと思います。

委員 学校図書館システムの書誌データはどのようにしていますか。

事務局 TRCなどが持っているマークなどを使って電算化しています。

委員 時間をかけて蔵書点検を行っても、学校同士の連携や図書館との連携など、さらなる充実が図られなければ意味がないように感じます。

事務局 今回は蔵書点検を行ったことが大きな進歩だと思います。

委員 システムは学校ごとで、一小の蔵書を二小が見ることはできますか。

事務局 同じシステムを利用しているので実現は可能ですが、現状では学校同士で繋がってはいません。

委員 ゆくゆくは横断検索ができるようにするとして、まずは図書館ホームページに各学校図書館のリンクを貼ることはできませんか。これならホームページにリンクを貼るだけなのであまりお金をかけずにできることだと思います。

事務局 職員が学校図書館システムについて詳しくわかっていないので、まずはそこを詳しく調査したいと思います。

委員 学校から子どもたちが市立図書館の蔵書を検索し、その本が学校に届くようになるのととても良いと思いますが、学校から図書館の蔵書は調べられますか。学校間の蔵書に違いはありますか。

事務局 生徒は直接図書館に来た方が早いので、学校でこれを利用するのは授業や調べ学習用として先生や図書館サポーターの方です。図書館のホームページから蔵書を調べて依頼することもできますが、先生側も本を調べる余裕までではないようで、こんな本を集めて欲しい、という依頼を受けこちらで集めて送っています。学校間での連携が始まって、先生方が慣れて機能するまでは、先生方の仕事が増えてしまうと思います。

委員 システムができてもし便性がないと活用されることがないので、できるだけわかりやすいシステムにしていきたいと思います。

委員 学校図書館の本は少ないので、いざ子どもたちが使いたいときに他の学校に送っていて必要な本がない、という状態が起こるのではないかと不安です。せっかく週1回の読書の時間があるので、先生だけでなく子どもも利用できると読書の広がりができるのではないのでしょうか。

委員 学校図書館の良さとして、新刊本がすぐ手に入るところがあります。大きな図書館では待つことが多いので。

委員 8-4シニア利用者に対する生涯学習支援の目標は前回「A」なので、今回は取り組みが何もないと「C」になってしまい非常に残念です。何か評価できるものはありますか。

事務局 23年度はプレイスで老壮シニアとの連携があったため記載できましたが、今年はできていなかったためこのような記載となりました。本来継続して実施できれば良かったのですが、この事業が漏れてしまいました。

委員 「検討を進めた」の「検討」の事実関係が入ればよいのではないのでしょうか。具体的に検討の報告書などがあればすぐに評価できます。

事務局 生涯学習スポーツ課経由の事業であれば協力ができていましたが、老壮シニアは直営の事業ではないため、他の事業は連携していた中でこれだけが抜けてしまいました。プレイスでは連携を図ろうとした経緯があるのでその点を記載したいと思います。また地域自由大学の講座等では関連図書の展示などを行っているので、純然たるシニアではありませんが、そういったことも記載します。

委員 「宅配」など、いくつかある「現状の把握に努めた」という表現が抽象的で評価が難しいので、案でなくとも資料などがあれば出していただきたい。

委員 取材や記録などがあればそれで良いと思います。

委員 1-1の目標ですが、予約棚はありますが、自動返却機について定期的な検証との繋がりが見えてこないなので、評価しやすいように補足してください。検証によって具体的にどんな成果が上がりましたか。

事務局 月1回の館内整理日に改修を行っています。センサーを増やしたり改良を行いデータを取り、効果があるものは取り入れています。一度にはできないので試して、計って、取り入れています。改修の報告書はあります。

委員 このシステムエラーは予約棚がメインですか。

事務局 予約棚と返却機の両方でしており、どちらも記録があります。

委員 検証をするのは業者ですか。それならこれは業者目標ではないでしょうか。

事務局 検証を図書館がさせる、という意味の目標です。

委員 改修は予約棚ならアンテナを増やすことですか。

事務局 予約棚はアプリケーションがバージョンアップしたので性能の変化が数値で出ました。返却機について数値はありませんが、以前より本を入れても戻ってくるのが少なくなり、スムーズに流れるようになりました。しかしその分読み取りの精度が下がり、誤仕分けが増えてしまいました。利用者が感じるシステムストレスは軽減されましたが、改善の余地は大いにあります。

委員 では評価は上段部分だけでよいですね。

4-1 電子書籍については、参加記録があるなら結果に記載してください。

また5-1 宅配ボランティアの研究をしたのであればその成果物を出してください。5-2 テーマ展示の協力課が減ったのは何か理由があるのでしょうか。

事務局 テーマ展示の協力課が減ったのは選ぶテーマに偏りがあったためです。

委員 ではそれがわかるように表記してください。

委員 6-3にある「講演会」とはどのようなものですか。

事務局 昨年度は2回実施しています。6月の講演会は絵本・童話作家のもとしたいづみさんをお呼びして、「絵本、より道うら話」を開催しました。11月は「紙芝居を楽しもう！」という2回の連続講座を実施しました。講師は元教員で読書指導でもお世話になっていて、また「紙芝居文化の会の会員」でもある井出村由江先生と長田道子先生をお呼びしました。

委員 1-3の自動返却機の戻りが減ったことの数値はありますか。日々の把握も検証なので、数字がなければ感覚的なものでも現状が書かれていると検証していると評価できます。また5-3「各事業者、団体等の活動について情報収集に努め」とありますが、結果が「2団体と協力」となっています。これは目標で言う「情報収集」と言ってよいのでしょうか。

事務局 返却機についての数値はありません。吉祥寺美術館とは以前から展覧会の会期に合わせて本の展示など連携を行っていましたが、市民文化会館との連携としては初めて行いました。「オルガンコンクール」という内容は周知の事実なので情報収集とは言えませんが、今まで近くにありながらあまり連携してこなかった反省も踏まえて、5年に1度のオルガンコンクールの開催に合わせてチラシを置いたり、CDや書籍を展示しました。民間団体との連携までは至っていませんが、まずは市の関連文化施設から情報収集を行い、回数は少ないもののミニトピックスという形で実施しました。やってこなかった連携が増えた点では進歩ではないかと思えます。

委員 この書き方だと狙っていたけどできなかった、というようなネガティブな印象でしたが、今の説明を聞くとそうではないので、そのいきさつなどを記載してはどうでしょう。

委員 「初めて」など言葉を加えるか、「〇〇から始めて〇〇した」といった形で取組目標に合わせた書き方にすると良いと思います。

- 委員 6-3の団体貸出先の数を参考までに教えてください。
- 事務局 学童や文庫など、全て併せて登録は23団体です。
- 委員 この評価についてはまた次回の会議の前に資料が送られてくるのですか。
- 事務局 回収の時間もあるので、修正したものはなるべく早めに送ります。評価が入った資料を送り返していただき、いただいた評価を集約して次回会議の1週間前くらいにはお送りする予定です。
- ② 平成25年度 武蔵野市図書館事業目標（案）について
- 事務局から前回からの修正事項を報告。こちらは今回確定とする。
- 委員 1-3の自動返却機の目標ですが、ゴールが見えないと評価できません。「探ります」ではなく探った後どうするかを入れてもらいたいと思います。
- 4-1電子書籍についてですが、フォーラム等へ参加がない場合の報告書はありませんか。参加しなくても研究の成果物の提出をお願いします。同じように5-1も「可能性を模索」するだけでなくゴールを設定してください。
- 6-1も「情報収集を行います」では抽象表現でゴールが見えないので、検討後どうするか、報告書にするなどを入れてください。また6-2も検討したあとにどうするかを目標にしてください。
- 7-2契約データベースはお金がかかるので難しいとは思いますが、「毎年1つ増やす」などの目標を掲げていただきたい。今ある契約を精査する必要ももちろんあるので見直しと追加を考えて、目標に入ると評価がしやすいと思います。またパスファインダー「おしえてむさしの」の4以降は発行されるのでしょうか。
- 事務局 今後発行予定があります。
- 委員 目標の「更新」というのは今アップされているものの改訂ですか。
- 事務局 WEBを更新するという意味で、内容は新しいものを掲載します。
- 委員 では発行ということですね。パスファインダーについては実績など難しいとは思いますが、数値を入れられるところは入れてください。
- 事務局 検討させてください。
- 委員 8-1レファレンス事例集の入力は、実績数を入れてください。「利用者アンケート」とありますが、今年も実施ということですか。
- 事務局 24年度に行ったような大きなものではなく、内容を絞ったアンケートを行いたいと考えています。
- 委員 アンケートを実施するのであれば報告書を目標にしてください。
- 8-2みどりのこども館でのおはなし会についての検証は、検討のあとどうするかを目標に加えてください。
- 委員 今すぐに修正するのは難しいと思いますので、次回までに直したものを送りいただきましょう。
- 委員 8-4シニア利用者に対するサービスの目標が「方針を策定」では23～25年度で後退しているような気がします。具体的なアクションが目標となれば良いと思います。また26年度までの目標としてボランティアの記載がありますが、これは26年度の目標で急にでてくるものではなく、25年度か

ら準備段階として検討が出てくるのではないのでしょうか。ただ、アンケート結果を見ると「参加したくない」人が多いようなので、目標の見直しも必要かもしれません。新しい方法を模索するだけでなく示してください。

事務局 今回のアンケートは次回長期計画の元になります。ボランティア参加の意識については文教委員会でも指摘がありました。今回の目標は変えられませんが、アンケート結果から目標や取り組み方を見直す必要はあります。図書館としてはできれば参加していただきたいと考えています。

(2) 中央図書館及び吉祥寺図書館の開館時間、開館日数の延長について

事務局より 24 年度目標の成果物として「中央および吉祥寺図書館の開館時間、開館日数の延長について」を提示、報告する。委員からの質問等はなし。

(3) 図書館サービスと運営形態、武蔵野市立図書館の運営方法に対する考え方

事務局より 24 年度目標の成果物として「図書館サービスと運営体制 武蔵野市立図書館の運営方法に対する考え方」を提示、報告する。

委員 本市では、中央図書館を図書館の本筋として、武蔵野プレイスは今風の複合施設の図書館と伺えますが、懸念材料として図書館がどう捉えているのかについてはどういう機会のどういうところで分かるのでしょうか。

事務局 運営形態を変更しても分析しきれないということは他の自治体でも聞きます。大きく変わった、悪くなったとはあまり聞きません。多摩地区で導入したところでは、指定管理側の人材確保などが問題になっていると聞きます。ただ、お示しできるものは現状として特にありません。

委員 情報収集をする際に検討事項は何点かあると思いますが、情報提供としては、民間委託している図書館は、図書館法に規定されている図書館の本旨が無視されているところが多いということです。評判が良いのはコーヒーショップや開館時間など表面的な話ばかりで、問題解決をする場所としての図書館の本質的機能の話は出ていません。指定管理の一番の問題は、職員のキャリア形成ができないことです。契約の職員では最大 5 年程度でキャリアが形成できません。では公務員がなぜやらなかったのか、民間のほうが良いということでもどんどん委託されてしまい、また民間に委託すると開館時間を延ばすなど表面的なことで評価され、図書館の本来の評価がなされていません。

図書館としての評価をする際に気をつけなければならないのは「知る権利」を保証する情報センターとしてあるか、という視点です。この視点で情報収集をすると筋道が立つと思います。

(4) アンケート調査結果報告について

事務局より平成 24 年度に実施したアンケート調査の結果について報告。

委員 電子書籍については継続的な調査が必要だと思います。出版界では 2016 年までに国内で流通している本のうち 100 万冊を電子化するという目標を発表しています。アメリカやイギリスでは 100 万、200 万冊流通し端末も普

及していますが、日本で流通しているのは 5000 点くらいで、コンテンツが少ないため端末も普及していません。大きな変化が来るのは 2016 年ではないかと思います。現在流通している本の大部分が電子化され、紙と同時に購入できるようになれば市民の関心も高まるはずで、動向をふまえてニーズを把握していくことが大切だと思います。

事務局 今後はシステム入替もあるので、動きを見ながら対処したいと思います。

委員 電子書籍に関心がある人が 50 パーセントで思ったよりも多かったですね。

委員 「4 現在の図書館サービスの評価」ですが、結果は大きく満足している人が上回っていますが、評価目標との関係性がないのでわかりません。目標と比較するという分析も必要ではないでしょうか。

事務局 今回はアンケート結果の報告のみで、分析は今後行います。

委員 「3 図書館の利用状況」ですが、図書館を利用しない理由として、他の自治体だと「不便」の割合が高くなるようですが、交通の便が良いプレイスが開館したこともあって今回の結果では少ないようですね。「図書館サービスの認知度」は「貸出」と「レファレンス」は公共図書館サービスの両輪と言われていますが、レファレンスの認知度が非常に低いようです。今後の広報の重要性を物語っていると思います。

委員 回答者の年齢構成を見ると高齢者が多いようです。この結果からも高齢者への配慮がより必要だろうと感じました。

委員 浦安市の図書館では高齢者の利用者は 7～8 割という結果が出ています。

委員 私も評価を含め、今後はシニアにもっと注目すべきだと思います。

委員 アンケートをまとめてやろうとすると項目を盛り込みすぎて回答率が下がってしまうので、本当は 1 年に 1 回程度項目を絞って行うのが望ましいと思います。

(5) その他（会議日程等）

次回は平成 25 年 7 月 25 日午後 5 時 30 分より中央図書館にて開催を決定した。

5 閉会